

国際基督教大学 (ICU) 高等学校

高校入試

住所 東京都小金井市東町1-1-1

電話 0422-33-3407

FAX

URL <https://www.icu-h.ed.jp/>

帰国生受け入れ開始年度 1978年

2019年度帰国生在籍数 高校1年:168人 高校2年:171人 高校3年:164人

帰国生のための部署/担当 帰国生徒教育センター/副校長・帰国生徒教育センター長 中島裕一 先生

帰国生入試について	
出願資格・条件	下記(1)から(4)の条件をすべて満たしていること。(1) 2005年4月4日以前に生まれた者 (2) 日本国籍または特別永住権の資格を有する者 (3) 次のa)・b)・c)・d)のいずれかに該当する者 a) 外国の学校教育(海外の現地校および国内外のインターナショナルスクール)における9年の課程を終了した者 b) 文部科学大臣の認定を受けた海外全日制日本人学校および在外教育施設(以下「日本人学校」と呼ぶ)の中学部を2020年3月卒業見込みの者、又は卒業した者 c) 国内の中学校を2020年3月卒業見込みの者、または卒業した者 d) 上記a~cと同等の公的資格を有すると本校が認めた者 (4) 海外に勤務する保護者に帯同され、2013年7月1日から2019年11月30日までの間に継続して1年6ヶ月以上海外に在留し、帰国後5年以内の者(2014年12月1日以降に帰国した者)※詳細は本校の募集要項をご覧ください
帰国生の編入試験について	
出願資格・条件	下記(1)~(4)のすべての条件を満たしていること 第一学年編入学(1)2004年4月1日以前に生まれた者(2)日本国籍または特別永住者の資格を有する者(3)外国の学校教育における第9学年の課程を2019年7月までに修了、もしくは修了見込みの者(4)保護者の海外勤務に伴う在留期間が継続して1年6か月以上あり、その期間が2019年3月以降に及ぶ者 第二学年編入学(1)2003年4月1日以前に生まれた者(2)日本国籍または特別永住者の資格を有する者(3)外国の学校教育における第10学年の課程を2019年7月までに修了、もしくは修了見込みの者(4)保護者の海外勤務に伴う在留期間が継続して1年6か月以上あり、その期間が2019年3月以降に及ぶ者
帰国生に対する配慮	
ICU高校は、異なるバックグラウンドを持つ生徒一人一人を尊重し、生徒の特性を活かす教育をめざしています。生徒が主体的に参加して切磋琢磨できるように、少人数やレベル別クラスで密度の高い授業を進めます。ICU高校の主人公は生徒です。生徒たちが自発的に生き生きと学び、活動できる伸びやかで明るい校風を大切にしています。それは、「帰国生受け入れを主たる目的とする高校」として、生徒の経歴・個性・希望をありのまま受けとめることを教育の出発点とする、1978年の本校建学からの考え方によるものです。	
クラス配置・一般生との位置づけ	
帰国生と一般生が同じホームルーム(HR)に集い、学校生活をつくりあげます。他方、多くの授業が少人数レベル別クラスで行われます。入学までの学習経歴や学力に応じて、教科ごとに4・5段階のクラスに分かれて授業を受けます。高校1年生の場合、HR単位で行われる授業は、一週間のうち4時間のみです。少人数レベル別クラスで、生徒は十分に納得するまで質問を重ねることができ、一人ひとりの学力に対応して深くレベルの高い学びを追究することも可能です。	
帰国生への学習指導	
さらに、海外で先進的な学びを経験した帰国生が一般生と共に学ぶICU高校では、レポートやプレゼンテーション、ディベートなどのグループワークなど、生徒が主体となる対話的な学びの場面が多く用意されています。1年生「英語」では、週6時間すべてコミュニケーションの授業にあてられ、英語で調べ、英語でまとめ、英語でプレゼンテーションして互いに評価するGlobal Issues Presentation Projectなどに取り組みます。2年生の公民科目では、帰国生と一般生が共にグループプレゼンテーションとディベートで現代社会の諸課題を探究します。理科では、「一授業一実験」をめざして実験観察とレポート作成の機会を多く取り入れています。学習の成果だけでなく、学びのプロセスを重視することが、深い学びには欠かせないと考えます。3年次には、演習科目を多く配し、大学入試に即した学力養成をはかります。	
外国語・日本語の指導、取り出しや補習など	
英語の授業は4つのレベルに分けて行われています。帰国生は自分のレベルにあったクラスで学習できます。1年生は週6時間、ネイティブまたはバイリンガルの教員による英語(コミュニケーション)の授業が行われます。英語圏やインター校のような授業(シェークスピアやさまざまなジャンルの小説の原書を年間4、5冊読みます)とライティングのクラスがあります。エッセイ、リサーチペーパーの書き方を学びます。その他、大学入試準備のための英文法や長文読解のクラスもあります。3年次選択科目には、Media Studies や Communication and Debate、International Perspectivesが置かれています。さらに、海外の大学に進学する生徒には、SATやTOEFLの指導もあります。AP Literature and Compositionクラスも開設しています。日本語の指導は、1年生「国語」の授業の中で必要に応じて行います。さらに必要な生徒には、昼休みや放課後のチュートリアルを実施します。	
入試に向けての事前準備や意識しておいてほしいこと	
「推薦入試」を受験する人は、学校生活と日々の学習を充実させてください。英語(やその他の外国語)の力を伸ばす努力をしてください。「書類選考入試」では、海外生活の中で得た外国語力と学校の学習の成果を審査しますので、たとえ海外生活が短くても学習言語を一生懸命身につける努力をし、他の教科の学習にも前向きに取り組んでください。いずれの入試も、中学校3年間の成績を中心に「書類審査」です。「書類審査」については本校のホームページをご覧ください。「学力試験入試」を受験する人は、中学校の基礎学力をしっかり身につけてください。英語の本などを積極的に読み、日常的に英語を使う努力をしてください。国語も長文読解の問題がありますので、普段からさまざまな分野のたくさんの本を読む習慣をつけておいてください。数学の問題はとてユニークな問題ですので、過去の入試問題集を必ず試してみてください。いずれの教科も、「じっくり読み、自分の頭で考える」ことを求めます。過去の入試問題集は一般の書店で販売しています。入試問題出題意図については、ホームページまたは学校案内をご覧ください。	
帰国生の卒業後の進路・進学状況について	
ICU(大学)へは上位希望者80名が推薦で進学します。ICU推薦は、高校2年生と3年生の成績をもとに選抜します。校内でSATの受験が可能であり、SATスコアを用いてICU推薦を受験することもできます。その他、国公立や私立の有名大学に多くが進学します。海外大学へ進学する卒業生も少なくありません。	
留学制度や海外大学進学支援体制について	
英語科専任ネイティブ教員がカレッジ・アドバイザーとして、海外大学進学希望者を個別で支援します。また、海外大学に進学した卒業生が来校し、海外大学受験準備について、アドバイスを「卒業生を囲む会」も実施されます。海外大学のアドミッション・スタッフが来校して、海外大学説明会が開かれます。	
帰国生や海外在住生徒保護者へのメッセージ	
海外での生活体験を家族全員で大切にしてほしいと願っています。現地語を習得する努力をし、現地のコミュニティで友達をつくり、博物館や図書館を利用し、旅行を楽しんでください。海外生活体験を通して、滞り国や社会のよいところ、抱えている問題や解決のための取り組みを見分けられるようになってほしいと考えています。このような体験は、マイノリティの視点から日本の社会を考察する力となります。帰国後は、日本の社会のよい点、問題点をしっかり考察する上での倫理観や判断力がもてるようになってほしいと思います。多角的、複眼的に社会のあり方を考察する力を育ててください。	